

情報クリップ

農業情報ピックアップ

9/22

千葉の牛は狂牛病と確認 英研究所が診断

千葉県白井市で見つかった狂牛病の疑いのある牛は狂牛病と確認されたことが明らかになった。農水省から送付されたこの牛の脳組織検体を検査した英国獣医研究所が狂牛病と確定診断し、これを受けて同省は、狂牛病と認めた。

狂牛病が発生したのは国内で初めてで、アジアでも初の事例になる。

(毎日)

トピックス

9/24 有機米の全国ネット誕生

「環境に優しい稲作」目指す

健康食として関心が高まっている有機米の生産農家が、このほど新会社「有機稲作ねっとわあく」(山形県川西町)を共同で立ち上げた。全国の農家が会社組織の形で連携するのは異例で、統一ブランドでの販売などを通じて有機米の普及を図る。農薬や化学肥料を使わずに育てる有機米は、雑草の除去などに手間がかかるため、生産農家は全国で数百軒にとどまっている。価格も一般のコメより6割程度高く、消費者の買い意欲を鈍らせていた。このため同社は、コメの検査や販売、宣伝活動などを共同で行うことでコストを引き下げ、これまでより低価格で有機米を提供したい考え。(時事)

9/26 霜被害の予測で新サービス
日本気象協会九州支社

日本気象協会九州支社は、250m四方という狭い範囲で気温の予測ができ、春先や秋口の茶、果樹類の霜被害を防止できる気温予測システム「霜ウォッチ」を開発した、と発表した。九州と山口県地方で10月10日から、専用回線でのオンライン配信を始める。同協

9/28 JA全農がモル開設

「産地直送」をアピール

JA全農は、JAグループの生産品を全国的に販売するための生ヨッピーンモールサイト「JAタウン」を開設する。消費者とJAグループの生産者を直接結び新たな販売チャンネルと位置付け、2002年度末で出店100店舗、月間売上高3000万円を目指す。全農では「単なる販売サイトではなく、旬の野菜、果物の情報やコラムなどを含め、農業の現場からの情報発信の場」としている。サイトではほかに、農産物の直売所や関連のレストラン、観光農園なども紹介、割引きクーポンを発行して集客に役立てる。JAタウンのホームページアドレスは、<http://www.jatown.com/> (毎日)

9/28 「牛肉」敬遠の動き広がる

スーパは売り上げ減

狂牛病に感染した牛が国内で初めて確認されたのを受け、消費者の間で牛肉関連の商品を敬遠する動きが広がり始めている。スーパーでは牛肉の売り上げが減少、国産品の使用を見合わせる焼き肉店も出てきた。消費者の問い合わせが相次ぐ食品メーカーでは、原料の確認作業に追われている。ダイエーや西友では、牛肉の売上高が前年水準に比べ約1割減少し、逆に豚肉や鶏肉の販売が増えた。イトーヨーカドーでも「問題の牛が狂牛病と断定された22日以降、牛肉の売り上げはマイナス傾向にある」という。(時事)

10/1 4日から肉骨粉の流通を全面禁止 狂牛病で農相が正式発表

狂牛病
飼料に 千葉県の調査で
千葉県白井市で狂牛病の疑いの

ある牛が見つかった問題で、この牛が処理場で処分された後、飼料を作る化製場で肉骨粉になっていたことが同県の調べで分かった。

農水省は10日、この牛について「廃棄された」と発表していた。同省は「(飼料になったことは)知らなかった」と弁明。同県は「高温で加熱処理されており、問題はない」としているが、狂牛病の原因物質であるプリオンは熱に強く、汚染が拡大する恐れもないとはいえない。(毎日)

10/12 東京卸売市場に持ち込まれた牛の延髄から反応

東京都は12日、港区港南の東京中央卸売市場食肉市場に持ち込まれた牛1頭の延髄から狂牛病(牛海綿状脳症)と疑われる反応が出たと発表した。厚生労働省が18日からの一斉検査に備えて行っていた検査研修で見つかった。検査用として解体された牛の肉は、卸売業者の冷凍庫に保管されている可能性が高いが、鮮度が重要視される内臓は飲食店に出回っている疑いが強く、都は回収を急いでいる。また、安全確認の体制が整うまで、同市場からの出荷を一切停止し、生体搬入も取りやめた。(毎日)

10/13 狂牛病「感染なし」と発表 精度検査で確認

東京・港区の都中央卸売市場食肉市場で解体され、狂牛病感染の疑いが持たれていた牛1頭について、厚生労働省は12日夜、別の精度の高い検査を行った結果、「狂牛病ではない」と判明した」と発表した。(読売)

10/7 専業農家以外へ減反を重点配分 食糧庁が方針

コメ政策の抜本的見直しを検討している食糧庁は、全国の食糧事務所長や都道府県の担当者らを集めて「全国説明会」を開き、改革の基本方針に対する理解を求めた。この中で、減反は農家への一律的配分から転換し、専業的農家以外の農家へ重点的に割り振る方針を

る可能性があるものすべてが対象。(共同)

10/12 東京卸売市場に持ち込まれた牛の延髄から反応

東京都は12日、港区港南の東京中央卸売市場食肉市場に持ち込まれた牛1頭の延髄から狂牛病(牛海綿状脳症)と疑われる反応が出たと発表した。厚生労働省が18日からの一斉検査に備えて行っていた検査研修で見つかった。検査用として解体された牛の肉は、卸売業者の冷凍庫に保管されている可能性が高いが、鮮度が重要視される内臓は飲食店に出回っている疑いが強く、都は回収を急いでいる。また、安全確認の体制が整うまで、同市場からの出荷を一切停止し、生体搬入も取りやめた。(毎日)

10/13 狂牛病「感染なし」と発表 精度検査で確認

東京・港区の都中央卸売市場食肉市場で解体され、狂牛病感染の疑いが持たれていた牛1頭について、厚生労働省は12日夜、別の精度の高い検査を行った結果、「狂牛病ではない」と判明した」と発表した。(読売)

10/7 専業農家以外へ減反を重点配分 食糧庁が方針

コメ政策の抜本的見直しを検討している食糧庁は、全国の食糧事務所長や都道府県の担当者らを集めて「全国説明会」を開き、改革の基本方針に対する理解を求めた。この中で、減反は農家への一律的配分から転換し、専業的農家以外の農家へ重点的に割り振る方針を

示した。意欲ある担い手にできるだけ生産を集中させて規模拡大を図り、コストダウンを目指すという。同庁はこれまでの減反面積割り当て方式をやめて、需要に応じた生産量規制に変更する方針を明らかにしている。(毎日)

9/14 コメ年間需要30万t減少

農水省は今年11月から1年間のコメの需要見直しについて、前年より30万t程度少ない約900万tに低下するとの試算を明らかにした。来年3月にまとめる「米穀の需給と価格の安定に関する基本計画」で正式に決定する。食生活の変化などからコメの消費の減少に歯止めがかからず、今年10月末の国産米在庫は当初予想より26万t増加し、210万tになる見込みだ。減反面積が増える一方、主流通米の価格は供給過剰で下落しており、こうした悪循環から抜け出すためコメの年間需要量を引き下げる。同省は今回、コメの生産量と在庫の増減や、個々の消費者の需要などをもとに3つの方法で試算し、900万t〜905万tと算出した。(共同)

セーフガード

9/10 セーフガード発動 来月中に可否判断 農産物3品

ネギなど農産物3品に関するセーフガードの本措置問題について、農水省の熊沢事務次官は会見で「政府調査は10月中旬をめどに(結果が)出る」と述べ、そのころに一定の方向性が示される考えを示した。中国政府との協議再開日程は決まっていないが、「まとまる方向で続けたい」と語り、話し合い

解決への期待感もにじませた。この措置はネギ、生シイタケ、イグサに対して4月23日に暫定発動された。期間は200日間で11月8日に終了する。本措置については、同省と財務省、経済産業省が政府調査の結果を踏まえて判断することになっている。財務省や経済界などには本措置へ慎重論が根強い。(毎日)

9/26 新セーフガードの詳細提示

日本政府は、WTOの農業交渉特別会合で、日本が提案している農産物の新型セーフガードの詳細を文書で提示した。特別セーフガードが認められている農産物以外にも「迅速かつ効果的な」輸入制限をかけることが狙い。日本政府の説明によると、小麦や乳製品などは輸入に当たっての関税化と引き替えに、輸入急増の際は高関税をかける特別セーフガードの発動が認められている。しかしキュウリやキャベツなどはこうした「安全ネット」がないため、今回の提案となった。具体的には、輸入数量や価格の下落について一定の水準を満たした場合は高関税を自動的に発動できるようにする。(共同)

遺伝子組み換え食品

9/21 遺伝子組み換え食品に独自マーク 東京都

東京都は、改正JAS法に基づき、遺伝子組み換えの有無の表示が義務付けられている食品に付ける独自のマークを発表した。2重の円の中心に「遺伝子」と表示。その周りを「組換え」「非組換え」「分別」と3分割し、どれかを矢印で示す絵柄。12月1日から都内

で販売される商品に表示されるよう、関係業者に協力を求める。都によると独自のマークを作ったのは全国で初めて。(時事)

10/2 スターリンク混入なし

日本で承認されていないトウモロコシの遺伝子組み換え品種「スターリンク」が、米国の飼料用トウモロコシのタネに混ざっていないか独自に検査していた、飼料作物用種子の業界団体「日本草地畜産種子協会」は、すべての検体で混入はなかったと発表した。検査したのは、米国から輸入された飼料用トウモロコシのタネ34品種。7月から9月にかけて国内で購入できた市販品について、同協会の研究所でスターリンク特有のタンパク質と遺伝子が含まれているかどうかを調べていた。同協会によると、この34品種で国内に流通する米国産飼料用トウモロコシ種子の約7割を占めているという。(共同)

テクノロジー

9/12 サツマイモの葉が増殖抑制剤

0-157を試験管内で サツマイモの葉に病原性大腸菌O-157の増殖を抑える成分が含まれていることが、農業技術研究所九州沖縄農業研究センターの試験管内の実験で分かった。11月にペルーで開かれるサツマイモに関する国際シンポジウムで発表する。同センター畑作研究部らは、サツマイモの葉が病気になるににくいことに着目、葉に病原菌を防ぐ成分があるとみて2年前から研究している。培養液にO-157と

粉末にしたサツマイモの葉を入れたところ、菌は全く増えなかった。食中毒の原因となるサルモネラ菌と黄色ブドウ球菌でも、増殖抑制効果を確認した。(共同)

9/19 松阪牛のクローン牛が誕生

国内でも最高級の肉質として知られる松阪牛のクローン牛が、三重県農業技術センターで初めて誕生した。今回誕生したクローン牛は、国内でも最高級の肉質として知られる松阪牛の中でも、一昨年の品評会で最優秀の一席に選ばれた雌牛から細胞を取り出して、別の牛の核を取り出した卵子に移植したいわゆる体細胞クローン牛。(NHK)

9/28 低温に強いイネを開発

遺伝子組み換えで農技研 農業技術研究機構・北海道農業研究センターなどは、遺伝子組み換えにより、活性酸素を除去する酵素の活性を高めた、低温に強いイネを作ることに成功したと発表した。低温に強いイネの開発は世界でも3例目という。イネは低温に長くさらされると、活性酸素が増えて細胞が破壊され枯れる。しかし高温の状態に置くと、活性酸素を除去する酵素、アスコルビン酸パーオキシダーゼ(APOX)が活性化し、低温に強くなることが分かった。(共同)

11月のイベント

●農業情報技術展2001・第13回 農業情報ネットワーク全国大会 11月1日〜3日

会場 西日本総合展示場
内容 日本最大級の農業データショー。「IT活用による農業経営と農産物SCM」および農業ITセミナー。
主催 農業情報利用研究会
問い合わせ 0298-56-1201
公式サイト <http://www.jsai.or.jp/takai/13th/>

●第40回農林水産祭「実りのフェスティバル」
11月9日〜11日
会場 東京ビッグサイト
内容 農林水産物の普及啓発、全国郷土特産物の展示即売会。
主催 日本農林漁業振興会
問い合わせ 03-3256-1791

●2001ジャパンフードサービスショー
11月22日〜25日
会場 パシフィコ横浜
内容 「おいしく、楽しく、健康に」をメインテーマとした日本最大の外食産業及び関連産業の展示即売会
主催 日本フードサービス協会
問い合わせ 当社 (0120-555-184)

●農林水産環境展2001
11月28日〜30日
会場 幕張メッセ
内容 環境に配慮した農林水産技術、有機性資源のコンポスト化技術やバイオガスをエネルギー技術、環境と調和した技術・商品・システムを一堂に展示。
主催 環境新聞社
問い合わせ 03-3399-5349
公式サイト <http://www.kankyoo-news.co.jp/etaf/>